

平成 29 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 豊延会	代表者	川島 攻	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図ります。利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、地域での暮らしを支援します。
事業所名	小規模多機能ハウス あさひ	管理者	津久井 洋和		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	4 人	2 人	2 人	0 人	0 人	3 人	0 人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 経験年数や常勤、非常勤によって、同じ取り組みでも違った評価(意見)が出ている。 職員が共通認識を持ち、積極的な意見が出せるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ客観的に評価ができるようミーティングや全体会議を通じてこれまでの取り組みを説明したり、資料を配布して説明を行った。しかし職員個々の捉え方や習熟度の違いから、違った意見が多数見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みについては良く分からない点が多いが、より良い施設になるために努力を続けて頂きたい。 毎年取り組むのは大変だが、一つでも改善できるように取り組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの取り組みに対して、肯定的に受け取るスタッフもいれば否定的に受け取るスタッフもいる。 それぞれ個々の意見として尊重すると共に、毎日のミーティングや毎月の全体会議等で意見を引き出し、共通認識を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 日中は鍵を掛けない介護を提供する。 また、落ち着かないご利用者には職員が付き添ったり、興味のあるものを提供して気分転換を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の改善計画以降は日中は鍵を掛けないケアが行えた。 また、落ち着かないご利用者に対しては、極力見守りやお話し相手、居場所を提供するなどの関わりを持つケアが行えている。 しかし、帰宅願望の程度によっては鍵を掛けざるを得ないケースも予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> 不快な音や臭いは感じず、きれいにしていると思う。 落ち着かない利用者がある時に、鍵を掛けないで対応するのは難しいこともあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵を掛けない介護を引き続き提供する。落ち着かないご利用者には職員が付き添ってお話をするなどの気分転換を図る。また好きなことや興味のあるものをご利用者と一緒に考える。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民から気軽に相談されるよう、地域の他事業所への広報活動や運営推進会議を通じたご意見をもとに、当施設が認知症相談窓口であることの周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用希望による相談はあるが、認知症相談窓口として気軽に相談されることはなかった。また、広報活動は法人内の事業所に留まり、他事業者への周知は行わなかった。 運営推進会議を通じた各委員への周知活動は継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントに出掛けるのは良いことなので積極的に続けて欲しい。 「認知症相談窓口」の看板はあるが、今後も周知活動が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き施設職員や運営推進会議委員から意見を募り、当施設が認知症相談窓口として気軽に相談できる場所であることの周知活動を継続する。 平成 30 年度から敷地内の特養あさひでこども食堂を開催し、地域交流を図る。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・介護が必要な方以外は事業所を訪れることがほとんどない。地域に積極的に関わることで気軽に相談できる場所であることの周知を図る。 ・今後も積極的に外出し、地域行事やイベントへの参加を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所や病院からの紹介など、当施設の利用を前提とした施設訪問はあるが、認知症相談窓口として気軽な相談はなかった。 ・運営推進会議では地域で行われる行事の情報を得て、区の防災訓練や産業祭へ参加した。また児童館での交流会や菖蒲祭り、七夕祭りなどの招待を受け、利用者と一緒に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練やお祭り、交流会等の参加状況について報告・説明する。引き続き運営推進会議等を通じて地域情報を交換したい。 ・利用者に提供している毎日のレクリエーションや行事、研修等について、運営推進会議で紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、運営推進会議や町から地域情報を得て、職員や利用者が積極的に地域と関わる機会を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で地域の心配な方や福祉関係の課題を取り上げる。必要な方については、事例を取り上げ支援に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では施設内の課題が中心であり、地域で心配な方や地域の福祉に関する課題は取り上げられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では、月ごとの利用状況、活動状況、研修や行事等の報告を受けている。 ・地域との交流を深めていきたいという施設の考えが伺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議への出席が少ない方(機関)へ声かけし、出席の協力を仰ぐ。 ・管理者以外の職員も運営推進会議に参加できるよう、勤務調整する。 ・引き続き、地域の心配な方や福祉関連の課題を取り上げ、必要な方は支援に繋げる。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を中心とした地域住民に、事業所の防災訓練の日程や概要を事前にお知らせし、参加協力を働きかける。 ・防災計画に沿った訓練を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議委員を中心に施設の防災訓練への参加協力を仰いだが、参加人数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に行われた27区の防災訓練に参加いただいていたありがとうございました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は施設関係者のみでなく、地域住民も参加できるよう計画を立て、災害時の協力体制を築く。 ・年度初めに事業所の防災計画を運営推進会議で説明する。